

緩和ケアの連携を考える ～病院医の立場から～

北野病院 神経精神科 香月 晶 先生

精神腫瘍学は聞きなれない言葉だとおもいますが、精神医学の中の一専門分野です。癌患者さんに多い病名告知などストレスに関連した症状として適応障害・うつ病、終末期に多くなるせん妄が3大精神症状です。精神科医はこのような精神科診断を下します。家族や医療スタッフの人間関係の理解などにも力を発揮できると思います。治療としては薬物療法・支持的精神療法などがあります。

癌診療においてはいわゆる告知の問題がありますが、現在は、もはや告知をすべきかしないかではなく、いかに伝え、いかに支えていくか、というコミュニケーションスキルの開発やトレーニングも精神腫瘍学の大切な課題となっています。

日本で癌診療に携わる精神科医の多くは総合病院に勤めていますが、ごく少数派です。が、緩和ケアチームに精神科医を必須にしているのは日本だけです。在宅緩和ケアの精神症状についてはまず総合病院精神科がリードできればと思います。